

【夜間景観部門】

No.1	(名称、団体名等) あるかぼ〜とガス灯通り
応募理由	市民または観光で下関を訪れた方々に、関門海峡の夜景を楽しめる夜の散歩道として周知できればとの思いを込めて応募しました。 歩いていると、ガス灯の柔らかなあかりに癒されます。



【夜間景観部門】

No.2	(名称、団体名等)夜の「はい！からっと横丁」
応募理由	あるかぼ～との新名所である「はい！からっと横丁」。入園料は無料。 全高約60メートルの大観覧車から海峡の夜景を楽しむには、最適のスポットです。



【夜間景観部門】

No.3	(名称、団体名等) 海響館横 青の回廊
応募理由	グランドホテルから海響館に向う小径は、下関市のイメージカラーである青色のイルミネーションに彩られて、とても幻想的です。



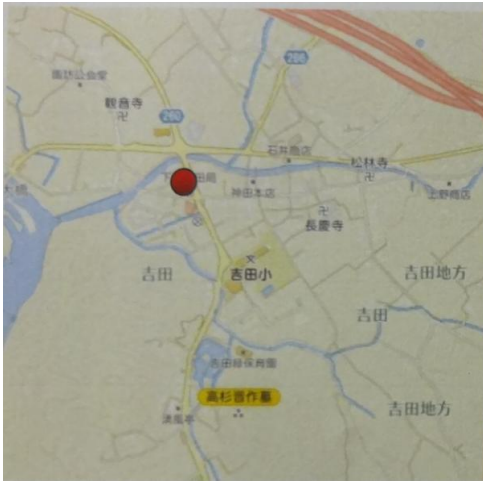
【夜間景観部門】

No.4	(名称、団体名等) K邸
応募理由	一戸建て住宅でも照明計画やまちなみ配慮次第で、地域の夜間景観の一部となり、今後この地域の景観形成に寄与することが出来る可能性を感じる。



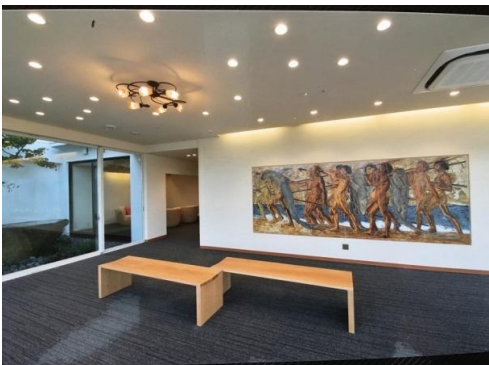
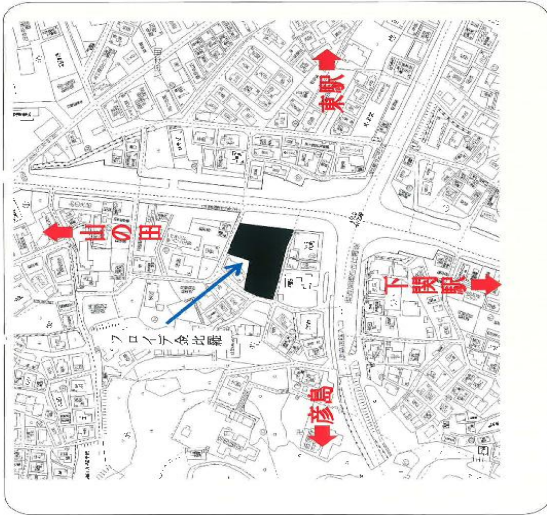
【夜間景観部門】

No.5	(名称、団体名等) YH space
応募理由	花ブロックへのアップスポットが特徴的なライティングデザイン。 近づくとも幾何学的な木ブロックの照明が何とも言えない雰囲気である。



【夜間景観部門】

No.6	(名称、団体名等)「フロイデ金比羅」にかかる青木繁“海の幸”大型陶板レリーフの夜間展示
応募理由	<p>当大型陶板レリーフの制作は、昭和54年の山口県信用漁業協同組合連合会ビルの新築工事にあたり、その玄関ロビーの正面壁面の陶板レリーフとして制作されたものです。当時、オーツカオーミ陶業(株)(滋賀県信楽町)が大型陶板の開発に成功し、原画所有の石橋美術館の認可のもと制作されたもので、日本でただ一つの大型陶板の作品です。その後、平成8年ビルが西中国信用金庫に転売されており、信用金庫のイメージにマッチしないとの理由で倉庫に保管されていた作品を、平成26年社会福祉法人松涛会が無償譲渡を受け、この度の展示となりました。その際、石橋美術館のご了解を得て、展示しております。</p>



【夜間景観部門】

No.7 (名称、団体名等) あげぼの珈琲 下関店



【夜間景観部門】

No.8 (名称、団体名等) サンタクロース(ケーキ屋)



【夜間景観部門】

No.9 (名称、団体名等) 維新ダイニング 十楽



【夜間景観部門】

No.10 (名称、団体名等) 料亭 小串屋



【夜間景觀部門】

No.11 (名称、団体名等) 下関市立豊北歴史民俗資料館 太翔館



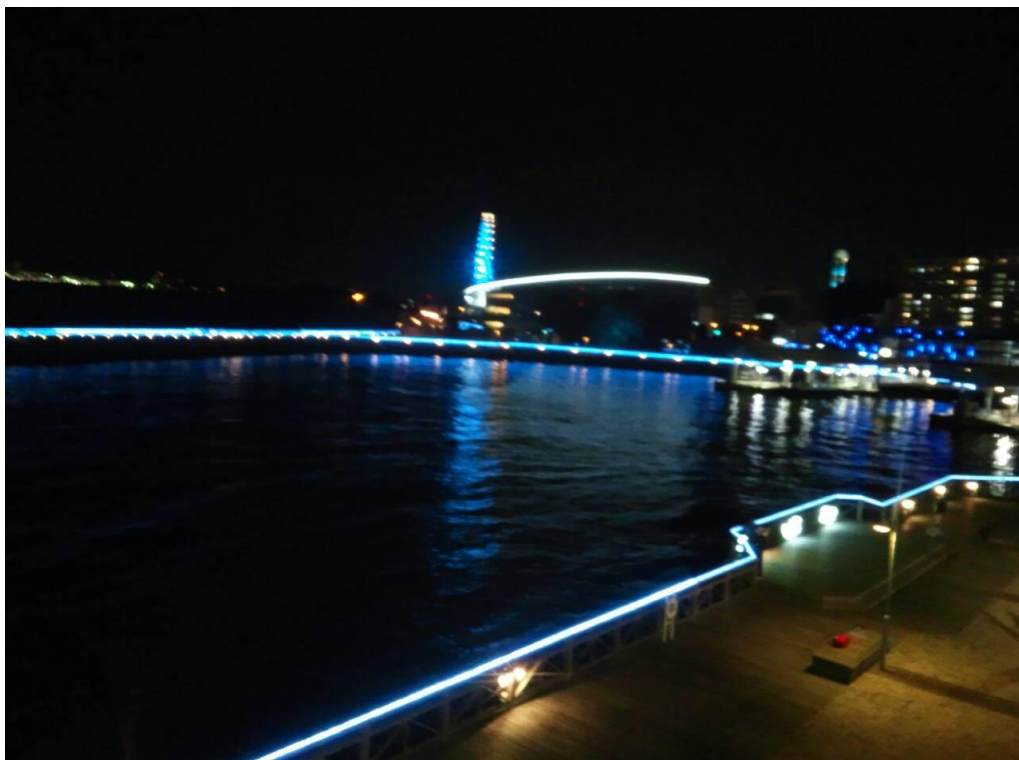
【夜間景観部門】

No.12 (名称、団体名等) 長府金屋町



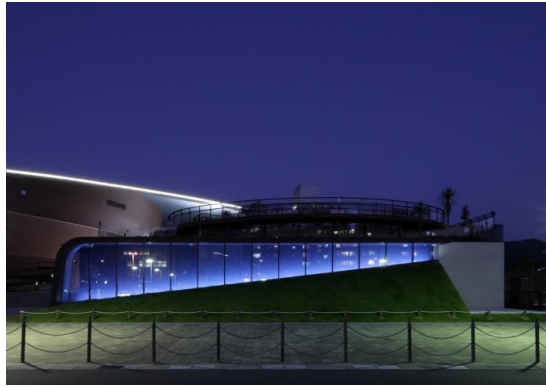
【夜間景観部門】

No.13	(名称、団体名等) あるかぼーと水際デッキ イルミ
応募理由	敦煌ピアガーデンから撮影。 地形に沿った光のラインが海面に映り、幻想的である夜間景観となっていると思いました。



【夜間景観部門】

No.14	(名称、団体名等) 海響館
応募理由	開口部の内側間接照明が海底からの光のようなライティングデザインとなっています。



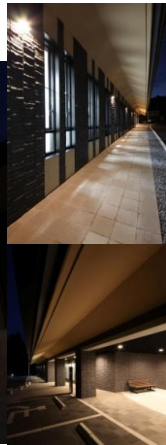
【夜間景観部門】

No.15	(名称、団体名等) 下関市役所
応募理由	エントランスのカーテンウォールが美しいデザインの新庁舎。 夜間は建物からの照明により、デザインが際立つ。



【夜間景観部門】

No.16	(名称、団体名等) 下関市立歴史博物館
応募理由	城下町長府川端の功山寺そばで新しい市立博物館が11月に開館されます。夜間景観の面においても、長府地区のランドマークとして、城下町長府らしい趣のある光の演出を行っています。



【夜間景観部門】

No.17	(名称、団体名等) 川棚の杜コルトーホール
応募理由	この建物は、豊かな自然と呼応するような有機的(ORGANIC)な建築になることを目指して設計されています。 奥の切り取られたような開口部からの光が他の壁面を照らして面白い。



【夜間景観部門】

No.18	(名称、団体名等) 川棚のクスの森
応募理由	樹齢1000年の巨大なクスの木。 ライトアップすると、一本の木がまるで森のように色々な表情を見せてくれます。

